

令和5年3月定例会

一般質問

- 1、市の将来人口について
  - (1)社会保障・人口問題研究所予測について
  - (2)縮小均衡は成立しないことについて
  - (3)人口増を目指した施策について
- 2、企業用地確保について
  - (1)平成20年の企業用地確保検討委員会の報告について
  - (2)現在の用地確保の状況について
  - (3)県企業庁へ働きかけについて
  - (4)産業立地推進について
- 3、三河港港湾計画改定について
  - (1)進捗状況について
  - (2)蒲郡地区水面貯木場の取扱いについて
  - (3)市民の考えについて
- 4、国道247号鹿島バイパス4車線化について
  - (1)進捗状況は
  - (2)クラスポ前交差点について
  - (3)カインズ付近の迂回路について

◆新実祥悟議員 おはようございます。

議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

後ほど掲示させていただきますが、パネル使用の許可もいただいております。加えて、タブレットにその画像を格納させていただきますので、御参考にしていただければと思います。お願いします。

では、大きい1番、市の将来人口についてお尋ねいたします。

(1) 社会保障人口問題研究所予測についてでございます。

コロナ禍の影響もあったかと思うのですが、社会保障・人口問題研究所の予測よりも蒲郡市の人口減少というのは大きくなっていないか、どうか。そのようにも思えるのですが、その点について御所見をお願いしたいと思います。

◎大森康弘企画部長 本市の令和2年の国勢調査による人口は、7万9,538人という結果でございました。これまで国立社会保障・人口問題研究所が公表してきました本市の令和2年の将来推計人口は、平成25年の公表時が7万8,872人、平成30年の公表時が7万9,343人でございましたので、若干の改善傾向が見られる結果となりました。しかし、その後も自然減の数は多く、長期的には減少傾向が続くものと推測されますが、引き続き、移住・定住等の施策を継続し人口減少の低減に努めてまいります。

以上です。

◆新実祥悟議員 国勢調査を基にするとそういう結果かと思うのです。ところが、この3月1日の速報値でいきますと7万8,572人というように出ております。ということは、蒲郡市の第五次総合計画の目標値でいきますと、令和7年度では7万8,400人としているわけです。それで令和12年度の目標を7万7,000人としています。言ってみれば、令和7年度の目標に非常に近い数字に今現在なっているということで、それで少し心配してお尋ねしました。これがまた、政策によってうまく持ち上がっていくといいなと思いますが、これは後ほど伺います。

(2)の縮小均衡は成立しないことについてお尋ねします。

昔ですけど、大手スーパーが独り勝ちを目指して頑張ったのですが、取引企業が離れて行って、結果として行き詰まって、次に、縮小均衡というのを目指したところが、これが資金繰りに行き詰まってしまった。公共でも人が減ることによって税収が減ります。税収が減ることで、結果としては職員を減らすですとか、あるいは行政サービスを削減するですとか、そういうような縮小、あるいは均衡を目指した対応ということをしていくと、蒲郡市としても破綻する可能性というのは見えてしまうのではないかとこのように心配しているのです。

そこで、お尋ねするのですが、こうならないようにするにはどうするのか、あるいは、こういった考えというのをどう受け止めるかお願いしたいと思います。

◎大森康弘企画部長 少子高齢化により人口が減少を続ける中で、年齢構成のひずみも大きくなり、財政・社会保障制度を維持していくことがますます難しくなっています。そのような中、今後も少子化対策や労働生産性の向上を図ることが大変重要であると考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 先ほど、後で伺うと言ったことをここで伺うのですが、(3)人口増を目指した施策についてを伺います。

一般的にはどのようにすべきと思いますか、お尋ねします。

◎大森康弘企画部長 国におきましては、人口減少時代の到来と東京への人口集中という課題に対応するため、平成26年11月に、まち・ひと・しごと創生法を制定し、まち・ひと・しごと創生長期ビジョンや総合戦略を定めております。これを受けまして、本市におきましても、蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンと創生戦略を平成28年3月に策定し、地方創生に向けた取組を進めております。

さらに、国におきましては、東京への一極集中と全国的な人口減少に歯止めがかからないことから、地方創生の更なる充実と強化を図るため、第2期まち・ひと・しごと創生総

合戦略を令和元年12月に閣議決定しています。これを踏まえ、本市においても、新たに第2期蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略を令和2年3月に作成しております。

この地域戦略におきましては、本市として一定の人口規模を維持し、将来にわたり持続的に発展していくためには、仕事人が人を呼び、人が仕事を呼び込む好循環を確立していくことが大切であると考え、関連する様々なKPIを定めながら、子育て環境の充実をはじめ、産業の活性化、定住・交流の促進、地域活性化といった諸課題に対して戦略的に取組を進めているところでございます。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 大枠として今の言葉でつかめるところもあるのですが、実際には地道な努力をコツコツとあきらめずに続けていくということも必要ではないかというように思っております。そうした事例を企画部としてお持ちであるなら御披露いただきたいと思いません。お願いします。

◎大森康弘企画部長 様々な取組の中で移住・定住の施策といたしましては、移住フェアへの出展やセミナーの開催による知名度向上に努めるとともに、実際に本市を訪れていただく機会として、リアルな蒲郡市を体験していただく移住体験ツアーや、蒲郡市内の企業で働きながら、地元の方と交流し休日を過ごすまごおりワーキングホリデーなどを行い、移住者の確保に積極的に努めているところでございます。

以上です。

◆新実祥悟議員 数としてはそんなに多くはないというように思います。でも、そうしたことを積み重ねていただいて、1人ずつこの蒲郡に住んでいただけるような形、そういった施策も必要だと思えます。

今後ともよろしくお願いします。

では、次、大きい2番、企業用地確保についてお尋ねいたします。

(1)平成20年の企業用地確保検討委員会の報告についてですが、まずは平成20年に設置された蒲郡市企業用地確保検討委員会では、どういったことが検討され、報告されたのかお尋ねいたします。

◎池田高啓産業振興部長 蒲郡市企業用地確保検討委員会では、市内経済の活性化を目指した企業誘致を推進するに当たり、明るく元気なまち蒲郡にふさわしい、新たな企業用地を確保するために設置されたものでございます。

本委員会では、最終的に柏原町堀切地区、竹谷町大久古地区、神ノ郷町国京地区、水竹町及び平田町地区、柏原町坂野地区の市内5か所の候補地が選定され、蒲郡市企業用地確保検討委員会として報告に至っております。

以上です。

◆新実祥悟議員 次に、企業用地確保検討委員会で選定された5つの候補地について、現在の状況についてお尋ねします。

◎池田高啓産業振興部長 選定されました5つの候補地のうち、柏原町堀切地区については、本市により柏原地区企業用地として、水竹町及び平田町地区の一部については、民間開発により市内企業の工場用地として、それぞれ開発が完了しております。

以上です。

◆新実祥悟議員 残り3つあるわけですが、これもまだ生きている状態かなと私は思っております。

そういう中で、(2)現在の用地確保の状況についてです。現在の企業用地の確保状況についてお尋ねします。

◎池田高啓産業振興部長 現在、本市が所有する企業用地はございませんが、市内の複数箇所において、民間事業者による開発の検討が進んでおります。

本市は、市街化区域には新規立地のためのまとまった土地は少なく、市街化調整区域にも開発に適した土地は多くありません。そのような状況下において、本市に適した産業の企業誘致や市内企業の皆様が必要とする移転用地、拡張用地の確保が喫緊の課題であると考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 そういう中で、(3)県企業庁への働きかけについてお尋ねします。

企業用地の造成というのは、まず技術と経験を持つ愛知県企業庁に相談することが先決だと考えています。企業用地の確保について、愛知県企業庁との情報交換や働きかけなど、どの程度実施しているかお尋ねします。

◎池田高啓産業振興部長 愛知県企業庁においては、県内で多くの企業用地造成事業を手掛けており、技術と経験を兼ね備えていますので、企業庁を事業主体とした企業用地開発の実現に向け、定期的な情報交換を実施しています。

また、毎年、企業庁が実施する企業用地の開発意向等に関するアンケートにおいて、本市は工業用地を新規に開発する意向があるということも回答しております。今後も、機会あるごとに愛知県企業庁とは、情報交換していきたいと考えています。

以上です。

令和5年3月定例会

一般質問

◆新実祥悟議員 時々、新たな視点によるという言葉は聞くのですが、新たな視点による適地調査という、その意味というのはどういうことかお尋ねいたします。

◎池田高啓産業振興部長 新たな企業用地を確保する目的は、企業誘致の促進と市内再投資の促進の二つの側面がございます。

企業誘致は、本市における内需拡大や新たな雇用創出を実現するものでございます。

一方、市内再投資は、地域産業の活性化を促進するものでございます。

これまで本市は、主に企業誘致を中心に取り組んでまいりましたが、市内の中小事業者様も含めて、事業拡大や大規模ではない移転用地のご相談もいただいております。このため、今後は、市内企業における再投資を促進させる側面からも企業用地の適地調査を進め、地域内に新たな雇用と需要を生み出し、地域経済の活性化を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 では、(4)産業立地推進についてお尋ねします。

令和5年4月1日付、機構改革において産業立地推進室の新設というのが発表されましたが、どのような業務をどのような体制で担っていくことになるのか伺います。

◎鈴木寿明市長 現在も企業誘致及び立地相談、企業用地の開発支援に関しましては、産業政策課で所管しておりますけれども、新たに産業立地推進室を新設し、専属の室長と担当を置くことにより体制強化を図り、製造業に限らず商業や農林水産業を含めた産業誘致や立地相談、産業用地の開発支援を専門的に取り扱い、産業立地に積極的に取り組んでまいりたいと思っております。

◆新実祥悟議員 市長さんの御答弁があると思っていなかったものですから、向こうを向いていたのですが、市長の御答弁があったということは、それだけ強い思いがあって、この室というのを設置したと、そういう受け止めでございます。ぜひ、これをうまくやっていただければと思います。お願いします。ありがとうございます。

次、大きい3番に移ります。三河港港湾計画改訂についてです。

(1)として、進捗状況について、ということですが、三河港港湾計画改訂の進捗状況についてお尋ねします。

◎鈴木伸尚建設部長 三河港港湾計画の改訂につきましては、令和元年度から改訂に向けた検討が行われており、現在までに、委員会が3回、幹事会が4回開催されました。

検討の内容は、現況調査、長期構想(案)の検討を行い、現在は将来の貨物の取扱いに関する検討を行っておりますが、激変している貨物の動向や、令和5年度策定予定のカー

ボンニュートラルポート形成計画の内容を踏まえ、改訂作業を進めていくと県から聞いております。

以上です。

◆新実祥悟議員 この改訂を私自身は非常に楽しみにしております、去年もどうなっていますかという質問をさせていただきました。

そういう中で（２）蒲郡地区水面貯木場の取扱いについてをお尋ねするのですが、市としてはどのように考えているのかお願いいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 現在、原木の取扱量は、ピーク時の１％未満と減少しており、水面貯木場は使われておりません。市といたしましては、企業用地の造成など、水面貯木場を有効に活用できる方法につきまして、関係機関の皆様と一緒に検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 どういったことをするのか、なかなか見えてきませんが、市はそれなりにこうなったらいいなというを持っているのかなと思うのですが、うわさ話ですが、覆砂をして環境調査をするというような話を聞いたことがあるのですが、その点についてはどのような情報としてつかんでいるかお願いします。

◎鈴木伸尚建設部長 貯木場で覆砂をするという具体的な話は、市といたしましては聞いておりません。

以上です。

◆新実祥悟議員 では、そこに企業用地を造成する場合、どんな課題があると思われるかお願いします。

◎鈴木伸尚建設部長 水面貯木場の跡地は、拾石川河口部に位置する面積約15ヘクタールの水域でございます。企業用地の造成に当たりましては、河川の流下能力に影響を及ぼさないよう対策を講じる必要があるほか、護岸工事や地盤改良工事の必要性など、埋立地特有の課題もあり、これらの課題に対する対策と採算性につきましても検討する必要があります。

以上です。

◆新実祥悟議員 それでは、ここでパネルを掲示させていただきます。（パネルを示す）後ほど、傍聴席にも回します。

これは私が勝手に書いているものです。浜町に本当に西の隅のほうに、亀岩臨海公園と  
いうのがあります。この亀岩臨海公園と247号鹿島バイパスの間に水面貯木場というの  
がありまして、昔は外国から船が来て、木材船が来たわけですが、その木材をこの水面の貯  
木場に入れていた。この黄色い部分も貯木場です。これが今、全く使われていないとい  
うことで、以前は私も思っていたのですが、この黄色い部分を埋立てして企業用地にし  
たらどうかというように思ったのです。それで、247号のカインズのところに信号があ  
りますので、その信号交差点に向けて道路を1本入れて、ぶつけてですね、それで流  
通をやすくするというような考えを持ったわけなのです。ただ、これが本当にいいか  
どうか、今少し不安に思うところもあるわけです。

黄色が埋立てするところ、それからこの青い線が247号の鹿島バイパス。この信号  
のマークがカインズ前の交差点というものです。赤いラインが新たに流通のため  
に道路を入れましょうという、そういったものです。

最近では、臨海地区の企業用地というのは、震災以降敬遠されがちだとい  
うように私は聞きました。電気自動車製造が本格化すれば、現在の3分の1の部  
品が減るといっても聞きました。そういう中で、10年後の用地需要が今ほど  
あるかどうか、私としては巨大な、例えば15ヘクタールというこの水面貯  
木場ですが、そのうちの一部拾石川の流域です。流れを止めるわけにはいき  
ませんので、10ヘクタールぐらいは埋めれば企業用地になるかと思  
いますが、その10ヘクタールというものが使われることになるかどう  
かというの、少し心配な部分もあります。

それにも増して、建設部長の答弁にもありましたように、高額の用地  
造成をして採算度外視でつくってしまっていて、結果として投げ売  
るということには、今の時代では考えられないのです。昔の日本  
で開発をどんどんやりましょう。浜町をつくった時代には、当然  
国のお金も入って、広げましょうというような話ではあったか  
と思うのですが、時代がそういったものは許さない。国民が許  
さない、市民が許さないというようなところにあるのではない  
かというように思います。

そこで、考え方を大きく転換すべき時ではないのかと思って、  
次の質問をさせていただくのですが、(3)蒲郡市民の考えについてです。

市民の方と話をしていると、そんな何十人というわけではない  
ですが、数名の方です。男女問わずいらっしゃいますが、蒲郡  
に誰もが気楽に集える浜辺が欲しいというような話があり  
ました。それで、そうした方の考えをまとめて提案させていただ  
くわけですが、これは定住政策の大黒柱にもなるのではない  
かと思っております。それがどういったことか、しばらく  
時間をください。

市民が気楽に集える、市民のための浜辺が欲しいと市民からの  
要望があるのですが、私はここ、この場所全体に覆砂をして、  
市民のための海浜親水エリア浜辺になったらいいな  
と考えています。

その図がこちらです。（パネルを示す）もちろん亀岩臨海公園がここにあるのですが、この臨海公園との接続をしっかりと図って、一体化したらどうかと。そして、同エリア、この臨海公園は浜辺をつくったエリアへ道路を247号鹿島バイパスのカインズの信号のところから設置していただいて、もちろん駐車場を確保して、この親水エリアに誰もが行きやすいようにしていただく。そして、もちろん駐車料金は無料とするということで、老若男女が集えるようにすることで、子ども政策にも若者政策にも高齢者福祉にもなると考えます。市民から求められているスローライフの勧めにもなります。もちろんマリンスポーツも考えられますし、海釣りエリアを設けることもできるでしょう。第一義的には、市民のためですが、観光を排除するわけではありません。屋外イベントも積極的に誘致したいと思います。もちろん、堤防で閉じてはいけないと思います。盲腸のようにになっているこの黄色いところですが、ここは閉塞区域というのは、荷上場だったのかなと思うのですが、ごみのたまり場になる可能性がありますので、これは当初から埋め立てていただくというのは必要なのかなと思います。

このように私は考えているのですが、御所見をいただければと思います。お願いします。

◎鈴木伸尚建設部長 水面貯木場の活用といたしまして、海浜親水エリアの整備といったご意見もあるということは承知いたしました。現在のところ市といたしましては、企業用地の整備ができないかと考えておりますが、実現していくには様々な課題があると認識している状況でございます。

今後、こうした様々な情報を踏まえた上で、どうすべきか考えてまいりたいと思います。

以上です。

◆新実祥悟議員 これまでと大きく政策転換する必要もあるのかなと思います。考え方も変えていただかなければならないと思いますし、将来構想というのも今の状況に合わせたものをしっかりとつくっていただきたいと思います。

先ほど、人口について伺ったのは、ここにあるというように思っております。いかに定住化してもらうかというために、楽しい蒲郡、昔私たちが、あの海で遊んだという、あの浜辺というのは、今はなくなってしまっているのです。そうしたものを取り戻すことによって、もしかしたら多くの方が蒲郡っていいよねということで、住んでくれるまちになるのではないかとこのようにも思っています。発想の転換ということも必要かなと思いますので、よろしく御検討いただきたいと思います。

では、次の質問に移ります。

4番の国道247号鹿島バイパスの4車線化について伺います。



(1) 進捗状況についてですが、鹿島バイパスの4車線化は、形原町、西浦町の方の期待が非常に大きいものです。現在の進捗状況を伺います。

◎鈴木伸尚建設部長 平成9年3月に全線開通しております一般国道247号鹿島バイパスは、形原北浜交差点から拾石東浜交差点までの間の約1.8キロメートルが暫定2車線のため、平日の朝夕の通勤時間帯に加えまして、土日・祝日には大型商業施設が隣接していることから慢性的な渋滞が発生しており、事業主体であります愛知県とともに、4車線化工事の着手に向けて調整を進めております。

これまでに4車線化に向けました橋梁及び道路の設計、隣接する地権者と用地境界の立会い、事業実施に必要な公安委員会との協議、地元周知等をおおむね終えております。今後は順次工事に入っていくこととなりますので、本市といたしましても、引き続き愛知県と連携しながら早期4車線化に向け調整を行い、協力してまいります。

以上です。

◆新実祥悟議員 もう一度パネルを出します。(パネルを示す)

この青い太いほうの線が247号の鹿島バイパスです。カインズ前の交差点がここにしろしがあるところです。現在2車線でこの信号も本当に渋滞しがちでして、何とか早く4車線にならないかなという、そういうお話です。後ろの方、よろしかったら、先ほど使ったものです。

(2) クラスポ前交差点についてお尋ねいたします。

クラスポ前交差点というと、この図でいきますとこの図面のこちらにクラスポがありまして、こちらがカインズです。247号線にコの字でぶつかる、方角でいきますとこれは南側ですが、図面でいきますと左側です。ここの交差点について、4車線化後はどのようなのかお伺いします。

◎鈴木伸尚建設部長 鹿島バイパスの4車線化事業や、本市の宮ノ要交差点へ道路を延伸する市道宮ノ要浅井新田1号線の事業において、クラスポ前交差点の信号機設置につきまして警察と協議してまいりましたが信号機設置は認めていただけませんでした。鹿島バイパスの4車線化事業では、交通安全の観点から、中央分離帯を設置することとしており、クラスポ前の交差点も同様に中央分離帯を設置すると聞いております。このため、クラスポ前の交差点ではこれまでのように蒲郡方面から右折による進入ができなくなり、カインズ側の鹿島大橋東交差点から曲がっていただくようになります。市といたしましては、浅井新田1号線から宮ノ要交差点まで道路を延伸する市道宮ノ要浅井新田1号線の整備を進めており、今後の周辺の交通状況により、信号機の必要性が認められれば、改めて信号機設置に向けて協議を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 今回の御答弁の中で、宮ノ要の信号交差点からずっと真っすぐ行くとクラスポ前の交差点のところにぶつかる、大体そういう絵を自分では描いていますけど。もう一度パネルを出します。

先ほど言ったクラスポ前交差点が皆さんから見て左手のほう、コの字の左手のほうです。その真っすぐ上に上がっていったところ、コの字の曲がったところですが、ここからそのまま真っすぐ上のほうに上がっていくと宮ノ要の交差点になる。その交差点から下りてきてクラスポでこの交差点、信号があったらいいなということを思って伝えているところですし、また、これは地元からもこういった要望が出ておりますので、今後、車の流れなどを見て、また信号交差点等、御配慮いただければありがたいというように思っております。

では、次に（３）カインズ付近の迂回路についてお尋ねします。

４車線化になると中央分離帯ができるということで、カインズ付近に最近、家がだいぶ建ち出しました。この近隣住民の出入りがしづらくなって、生活にかかわるのではないかとというように心配しています。そのために、その付近の迂回路はどのように考えているのか、また、県事業と市の事業の役割分担も併せてお尋ねいたします。

◎鈴木伸尚建設部長 鹿島バイパスの４車線化に伴う中央分離帯の設置により、信号交差点以外で接続する市道は左折しかできなくなり、周辺にお住いの方の生活に影響が生じる場合がございます。そのような方々に対しまして、本市といたしましても愛知県と調整しながら迂回路の設置を行うなどの対応をしてみたいと考えております。

具体的には、信号交差点に通じる市道浅井新田１号線につながる新たな市道を整備するよう、今後ルートを決めていく予定でございます。

なお、県と市の役割分担につきましては、鹿島バイパスへの取付道路部分の詳細設計、用地買収及び工事につきましては愛知県で行っていただき、市道浅井新田１号線につながる新たな市道整備の詳細設計、用地買収及び工事につきましては蒲郡市で対応してまいります。

以上です。

◆新実祥悟議員 もう一度パネルを使います。（パネルを示す）

カインズ付近の迂回路というのは、ここにカインズの信号交差点があります。当局の皆さんから見ると、右側の部分、こちらのほうですが現在、新興住宅地とまでは言いませんが、50件から100件ぐらいの間の家が建って、アパートもあるわけです。そこで生活している方が出入りができなくなってしまうということで、それを心配しているわけです。迂回路というと、このようにコの字の道路のほうにつないでいただけるのではないかと思います。ぜひともお願いしたいのは247号線の鹿島バイパス、４車線化と同時か

令和5年3月定例会

一般質問

あるいはその前に迂回路をつくっていただきますようお願いして、私の一般質問を  
終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。